

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 調査事件

(1) 函館駅前東地区市街地再開発事業の進捗状況等について

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、8月10日付で経済部および都市建設部から資料が配付されており、説明を受け
るため理事者に出席を求めたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ それでは、理事者の入室を求める。

（経済部・都市建設部 入室）

○委員長（山口 勝彦）

- ・ それでは、説明をお願いします。

○都市建設部長（佐賀井 学）

- ・ 資料説明：函館駅前東地区市街地再開発事業の進捗状況等について（令和5年8月10日付 経済
部・都市建設部調製）

○委員長（山口 勝彦）

- ・ お聞きのとおりである。
- ・ ただいまの説明について、各委員から何か御発言あるか。

○板倉 一幸委員

- ・ 市街地活性化は大変重要な事業だということで我々も非常に興味を持っている中で議論に参加し
てきた。残念ながらもなかなか進んでいないという状況で大変憂慮をしている。
- ・ 進捗状況のお話をいただいたが、再開発組合の設立が遅れている。去年提出された資料の中でも
同じように書かれているが、なぜ再開発組合の設立が遅れているのか。

○建築行政課長（溝江 隆紀）

- ・ コロナ禍によるホテル業界などへの影響により、ホテル事業者などへの出店条件等の調整や、昨
今の建設資材の高騰により、建設工事費が増大している状況である。こうした中で、事業全体の収支
に大きな乖離が生じており、これを均衡させるため、建設工事費の削減等に関する協議、検討に時間
を要していることが理由であると聞いている。

○板倉 一幸委員

- ・ スケジュールの遅れについてはそういうことだと。だから再開発組合が設立されていないという
ことなのか。

○建築行政課長（溝江 隆紀）

- ・ 組合の認可申請にあたっては、最終的に事業計画、収支計画を提出する必要があり、現在の状況で
は事業計画、収支計画をまとめられないという状況が続いており、それに伴い組合の認可申請の手

続きに入れないのが現状である。

○板倉 一幸委員

- ・ もともと再開発組合の設立はいつを目途にしていたか。

○建築行政課長（溝江 隆紀）

- ・ 駅前東地区市街地再開発事業について、令和2年2月に資料配付しているが、これが一番最初のスケジュールであり、その時点では準備組合を2019年7月に設立、その後、2021年10月に組合の設立認可というスケジュールを想定していたところである。

○板倉 一幸委員

- ・ 帯広の藤丸百貨店が閉店をし、私も藤丸さんへ行ったり話を聞いたりしたことがあり、今は新しい百貨店、商業施設を建設するという話を聞いているが、その経営者の皆さんあるいは経済界の皆さんがそこは大変重要な地域あるいは施設ということで、地域全体でなんとか維持している、守っていこうという考えを持たれて、どうやったら再開発できるか、議論なり、協議なり、いろんな取り組みをしているということがあり、新しい商業施設を建設することで進んでいる。しかし一方函館市は残念ながらなかなかまとめきれない状況があるなというふうに思っていて、そこがちゃんとしていかなければこの先果たしてどうなっていくのかと。安心して見ていっていいのかと思った。
- ・ 先ほどの説明で、事業収支均衡の見通しがたったということだが、東地区の再開発事業の計画の基本的な考え方は、ホテル棟、マンション棟、商業棟、全天候型交流広場で構成される複合施設だということで、施設計画の何を見直し、何を縮小することで収支均衡の見込みがたったということになるのか。

○建築行政課長（溝江 隆紀）

- ・ 準備組合それから事業候補者等との検討により、まず収支の改善に努めてきた。去年配付した資料の中でも説明しているが、基本的に機能は変えない。ホテル、マンション、商業棟、全天候型の市民広場と、そういった基本的な機能は変えないまま、規模を少し縮小する。例えば、面積をそれぞれ少し小さくしたりだとか、高さ、階数を少し削ったりだとか。それから材料の仕様を少し見直すとか。そういった検討を繰り返して、今段階の概算レベルでは収支均衡という目途がたったというのが現在の状況と聞いている。

○板倉 一幸委員

- ・ 令和2年にこの再開発事業の一定の考え方や内容を示していただいてから議論をしてきたし、市民説明会で市民の皆さんにも意見をいただいてきたわけである。規模もどういふふう縮小するのか、単に規模を縮小するとか、仕様を廉価なものに変えるとか、そういうことだけではどのような事業になっていくのかはつきり分からないと思うが、その辺は明らかでないか。

○建築行政課長（溝江 隆紀）

- ・ やっと概算レベルで収支均衡の目途がたち、事業候補者もいくつか見つかると、その候補者と協議しながらさらに整備内容に反映させて精査を進めている状況と聞いている。我々も2週間に1回連絡会議というものを開いて、検討状況、進捗を聞き、必要があれば指導や協議を行い進めているが、まだいろいろ検討していると。それによって整備内容も変わってきたりするので、今の段階で確定

的なものはとりまとまっていない状況であり、精査を進めていき、秋頃までに事業計画案としてとりまとめる予定でいるため、現在のところ具体的に申し上げることはできない状態である。

○板倉 一幸委員

- ・ もともとの計画でいくと、例えばホテルは24階建て、商業棟は4階建て、マンション・住宅棟は25階建てという計画で、これがどういうふうに規模が縮小されていくのか。かなり小さくなるのか、1、2階程度縮小するものなのか。それにより、どういう事業、位置づけになっていくのかが変わってくると思う。そこが曖昧なまま収支の見通しがたったと言われても、我々も議論の仕方、方向性を考えていくということがなかなか難しいと思うがその辺のところはどうか。

○建築行政課長（溝江 隆紀）

- ・ 今、面積、階数も常に動いている状態である。もともと高層のものを想定しているの、何階か階数が縮小する程度であるとか、感覚的な物言いで申し訳ないが、当初の計画が例えば半分になるとか、そういうようなレベルの調整ではないということは申し上げることができる。

○板倉 一幸委員

- ・ 事業収支の均衡の見通しがたったので、精査をしながら事業計画案としてとりまとめるとなっているから、どういう規模になるかとか、全体の形がどうなっていくか、その考えがまとまったからそれに基づいて収支を計算し収支均衡の見通しがたったということになるんだと思う。どの程度縮小なり見直しが行われたのかということは、今の時点でははっきりしてるんだと思う。言えないなら言えないで結構だが、そこが曖昧だと、本当に半分になったら、先ほど申し上げたようにこの再開発事業これでいいのかという根本の議論に戻る。市民に対する説明もゼロから始めなければならない。その辺のところはもう少しはっきりした方がいいと思う。

○都市建設部長（佐賀井 学）

- ・ この再開発事業はあくまでも民間が行っている事業で、その事業計画案をとりまとめる目途がたったということで、その案が来た段階で市としてもその施設で本当にいいのか、補助金を出す必要があるのかという判断に入っていく。そうした中、市民、委員会の皆様にもその施設の内容を示し、最終的に決定していくという流れで進めてまいりたいと考えている。

○板倉 一幸委員

- ・ 駅前大門地区の活性化をどうしていくのかということ、これは単に棒二森屋跡地の問題だけではなく、全体としてどう活性化するのか、その中心的なエリアになると思っている。ただここだけではなく、地域あるいは市にとってどういう位置づけにするのか、こういうことを行政がもっとしっかり考えに基づいてやっていくことが必要だと思う。
- ・ 今日の資料の中にも、市としての考え方に、中心市街地活性化にとってこの事業は必要不可欠な事業であると書いてある。これは必要不可欠だがやむを得ないということなのか、そういう行政の姿勢が遅れに繋がっているのではないかと、これまでも何かある度に申し上げてきた。駅前大門地区が中心市街地として活性化していくためには、市としてどういう関わり方あるいはその取り組みを進めていくのか。市の姿勢なり、考え方がはっきりしなければならないと思うが、その辺はどう考えているか。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 本市の中心市街地は立地適正化計画においても、居住誘導区域や都市機能誘導区域に位置づけられているほか、商業振興の観点からも重要な地域であることから、中心市街地活性化基本計画もあるが、その基本コンセプトである市民生活と歴史、文化、観光が融合した回遊性の高いまちづくり、これを継承しながら様々な取り組みを進めていく必要がある、そういう大事な地域であると考えている。

○板倉 一幸委員

- ・ そういう基本的な考え方に基つけば、この東地区市街地再開発事業はどういうふうに進めていかなければならないと思うか。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 今課長から答弁させていただいたとおり、重要な地域だと認識している。
- ・ 当然社会経済情勢等の様々な変化を捉えながら施策展開を図る必要があるというふうに思っている。市としても、広くこのエリアを捉えたときに一つずつ片付けていくのか、全体を見通してやるのか、こういったことも含めて庁内議論を進めていき、必要があれば皆さんとも議論、検討協議ということになると思う。現時点ではまだそのくらいしかイメージが湧いていないが、認識とすればこのエリアをにぎわわせるための取り組みは必要だというふうに思っているの、その手法として何がいいかこれから検討していきたいと思う。

○板倉 一幸委員

- ・ 私はそういう行政としての考え方なり、方向性なり——方向性は決まってるんだろうが——具体的にどう取り組んでいくのかという気持ちなり気概なり、そういうものが少し欠けているのではないかと思う。中心市街地活性化基本計画そのものが終了してから何年も経つが、この間の状況——これまで議会からもいろいろな議員から御意見申し上げてきたと思うが——今の駅前大門地区の商業状態というか、店舗の状況とかこういうのが果たしていいのかどうか。よく言われるように居酒屋がずらりと並んでいるそういう姿だけでいいのかどうかということにも関わってくる問題。だからこそ、この東地区の棒二跡の事業がどのように進んでいくかというのが、駅前大門地区のある意味方向性を決めてしまうということになると、その辺のところは私は函館市の考えが足りていないと思う。そこをしっかりとしてほしい。函館に来る観光客、ビジネス客が駅前大門地区を見てどう思うのかということ市が真剣に考えなければならない。再開発組合ができて、民間がやる事業で、市はそれに対する補助金を出すとか意見を言うだけなのかもしれないが。
- ・ 当初の予定は公共施設が入居するということが前提に計画が作られてきたが、規模が縮小になってもそれは変わらないのか——高さが縮小になるだけなのか、横も縮小になるのか——そのことによって予定された公共施設にその影響が出てくるのか、その辺はどうか。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 現在事業全体の規模の縮小や仕様の見直しによる内容の精査が行われている段階であり、公共施設の規模なども現時点では確定的ではなくお話できる状況ではないので、秋頃を目途に報告したいと思うが、準備組合から報告を受けている精査前の状況だと、規模的には大きく差が——かなり縮小しているとか——というような規模では聞いていない。

○板倉 一幸委員

- ・ 市の公共施設に入居してほしいと、そこを買い取ってほしいというようなことは変わっていないのか。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 令和2年12月に準備組合から市に対して、図書機能や交流機能を持つ公共施設の設置を要望されている。その後、その内容について特に変更するというような話は聞いていないし、再開発事業のなかで重要であると考えているので内容について変更していくということは考えていないようである。

○板倉 一幸委員

- ・ それはまた改めて一定程度明らかになったらお話をさせていただきたいと思う。
- ・ 今日には駅前東地区の事業だが、佐賀井部長の説明にもあった、東雲広路だとか、グリーンプラザだとか、そういう一体で開発を予定していた事業がある。先般の新聞に東雲広路の再整備見送りと新聞報道がされていた。見直しがいいとか悪いとかっていうことを申し上げているわけではないが、もともとこの計画が発表されたのが今年の3月。それが7月ですから発表になってから4か月ということになる。なぜ見送りをすることになったのか経緯をお聞きかせいただきたい。

○都市計画課長（小畑 雅裕）

- ・ 当時重要な関連事業である函館駅前東地区再開発の事業計画の進捗が見通せない状況にあったことや今後の函館駅前大門地区全体のまちづくりの方向性を整理する必要があったことなどから、公表済みである本年5月29日に開催した政策会議において、東雲広路整備基本計画の成案化および6月補正予算での事業化を一旦見送ることとした。
- ・ 国の補助事業である都市構造再編集集中支援事業を活用している関係上、国との来年度の予算協議が始まる本年秋口頃までには、計画期間内における東雲広路整備事業の継続意思などを示していく必要があることから、それまでに関係部局等との協議調整を図り、今後の再開発ビルの事業の進捗を見据えつつ、東雲広路を含め今後の函館駅前大門地区におけるまちづくりの方向性をどのようにとりまとめていくかなど一定の方向性を決定し、市議会へ経過を報告する予定としていた。今後、東雲広路の整備見通しが明らかになった段階で改めて詳細についてご報告する。

○板倉 一幸委員

- ・ そうすると、継続をしていくのか、継続をしていかないのかについても秋ぐらい、継続しないということもあるということか。

○都市計画課長（小畑 雅裕）

- ・ 秋口にどのようにとりまとめていくかなどの状況により、一定の方向性を決定し、その時点で改めて詳細について報告したいと思う。

○板倉 一幸委員

- ・ 先ほど話にあった東地区の市街地再開発事業の事業計画が出てきた時点あたり、秋頃を目途に検討状況の報告を行うということで、それと一体的に行うということなのだろう。例えばこの東地区の再開発事業の計画あるいは再開発組合の設立が遅れても、東雲広路だとか、そういった整備についてどうするかということについて秋には決定することになるということか。

○都市計画課長（小畑 雅裕）

- ・ 再開発事業だけではなく、今後の函館駅前大門地区におけるまちづくりの方向性すべてを含めて、今後どのようにとりまとめていくかということを、秋口までに検討したいと考えている。

○板倉 一幸委員

- ・ 分かった。ただ、特にこの東雲広路は3月に計画を作って見送りをすると。あまりにも期間が近すぎる。市長が変わったから物の考え方が変わって当然だと思うが、そのことがいいか悪いかは別な問題で、新しい市長によって、事業あるいは政策をどうしていくのかということが変わっていくというのは、そのこと自体が悪いということではないと思う。
- ・ 政策会議で見送ることを決めたと聞いて議事録も見たが、なぜこういった整備を行うことになったのか、基本計画を作って進めようとしているのか、その辺のところは熱意と言ったら言葉があれだが、そういうものが少し配慮が足りないのではないかと思うが、部長はどうお考えか。

○都市建設部長（佐賀井 学）

- ・ この政策会議のなかで最終的に判断した内容というのが、東雲広路の成案化の案件をどうするかといったことで、この成案化については、再開発事業の進捗を見ながら、またこの東雲広路に関しては4月にパブリックコメント、また関係団体等にも意見を聞いたところであり、その意見でも駅前大門地区全体を考えた中で、東雲広路の役割だとか考え方とかを決めていくべきだろうというような意見も多く出てきたと。この再開発事業の遅れの部分、そういった意見を踏まえて、市としての考え方として再開発ビルに設置する公共施設をどういうものにしていくか、またグリーンプラザを今後どうしていくか、また新たな市長政策との調整、こういったことを改めてこの地区のまちづくりの方向性を検討する中で決定していくべきではないかという議論になり、今後まちづくりの方向性をどうやって作っていくかというのを、この秋ぐらいまでに中心市街地の担当である経済部が中心となって協議し方向性を決めていくということになっているので、秋ぐらいには方向性は示せると考えている。

○板倉 一幸委員

- ・ 分かった。
- ・ 最後にこの事業のスケジュールだが、当然計画が変わってくるのでスケジュールも変わってくると思うが、再開発ビルの竣工の目標時期——これまでは令和8年度と聞いていたが——いつ目標になるのか。

○建築行政課長（溝江 隆紀）

- ・ 現在準備組合において、組合設立認可に向けて本年秋頃を目途に事業計画案をとりまとめているところであり、竣工時期それから工期の検討等についてもこのとりまとめの中で詳細に検討されるものであり、事業計画案が本市へ提出され次第、竣工時期についてもご報告してまいりたいと考えている。

○板倉 一幸委員

- ・ 竣工時期も秋ぐらいには見通しが出てくるということで、また改めてそのときにお聞きしたいと思う。
- ・ ただ、かなり大きくずれていくということではないということか。その辺の見通しはどうか。重要な事業だという位置づけになるのであれば、そこはもう少しはっきりした方がいいと思う。

○建築行政課長（溝江 隆紀）

- ・ 竣工時期については先ほど申し上げたとおりである。参考までに当初令和2年2月に配付した資料には、事業全体のスケジュール、想定スケジュールを記載しており、再開発組合の設立認可後に実施設計、それから権利変換計画の認可、既存建物の除却、新築工事と順にやっていると、おおよそ組合の設立認可から竣工まで約4年半ぐらいかかるということになる。

○板倉 一幸委員

- ・ 以前のスケジュールでいくと4年半ぐらいかかるということなので、令和5年秋ぐらいに認可になったということになると、令和10年度、そのぐらいが目途になるということだろうか。いずれ内容がはっきりしたらまたお聞かせいただきたいと思う。

○池亀 睦子委員

- ・ 配付資料から色々疑問点があったが、板倉委員の質疑を聞いて理解できた。
- ・ 民間主体ということで、委員会としてどこまで聞けるのかと非常に微妙なところだと思うので、その辺はしっかり配慮しながら私としても発言しなければいけないと思って聞いていた。
- ・ 事業計画案が示されてから4年半はかかるということで、ある程度市民の皆様の説明会とか、意見を聞く機会、私はそれはとてもいいことだと思って見ていたが、そうすると、その時にある程度の見通しとかも市民の皆さんにお話しされている。例えば女性センターとか、令和8年竣工を目指していたが、そこから伸びていくわけで、そういった場合に今公共施設として使おうとしていた、例えば女性センターであれば、そのまま継続して竣工になるまで使ってもらう形になるのか、いろいろ意見聞かれるので、それだけ確認させていただきたい。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 改めて統廃合について、これまで周辺地域の公共施設で役割が重複するというふうに見込まれる、女性センター、谷地頭老人福祉センター、ふらっと Daimon、東川児童館、千歳図書室について統廃合を検討するとしてきた。これは令和3年9月の中間報告で示したが、現時点では統廃合の方向性というのはまず決まっていない。今、再開発事業全体のスケジュールが遅れているということで、まずはストップになっている。今後、統廃合をどうするのかということについても、既存施設の統廃合というのも検討事項の一つではあるが、統廃合を前提とするのではなく、どのような機能が当該公共施設として相応しいのかということを引き続き検討していく。一度市民説明会等々で、統廃合というようなキーワードも出たので皆さん気にされているかと思う。全体のスケジュールの遅れということもあり、秋頃を目途にまずは事業全体の報告ということになるが、当然担当部局を通じて、その方向性についても——まだ詳細にはお答えできないが、もう少しお待ちいただきたい。——大きく方向性が変わるとか、市民意見をいただくということが考えられるときには、また皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと考えているので、追って各部局を通じてお示ししていきたいと思っている。

○池亀 睦子委員

- ・ よく分かった。
- ・ 声を聞く機会を設けた以上、皆さんの中には新しくできたそこに行き自分たちは活躍するんだと

思っている。佐賀井部長からも計画案が示されたらまた市民に対してしっかり説明していくという話だったので、そういうときに皆さんが今後こうなっていくんだなと描けるように、丁寧に説明をしていただきたいと思います。

○齊藤 佐知子委員

- ・ 今回の資料を見て、先ほどから答弁でも、秋頃までに、秋頃目途にという話をしている。今日はもう8月の末で、大変時間がない中でこの秋までにいろんな意思を示すとか、検討状況の報告を行うと言うが、本当に可能なのか、秋というのは具体的に何月を目途にしているのかお聞きする。

○建築行政課長（溝江 隆紀）

- ・ 今現在、収支均衡した概算レベルのものがあがってきて、精査を進めていくのと並行して、ホテル等の事業者等と細部について協議しながら、それを設計に反映し、また収支を見直していくという作業を繰り返している。
- ・ 市としても、細かい内訳を聞いたり、同時並行的に精査というのをこれから進めていき、今のところ組合と市とスケジュールについて秋頃までにということ共有して作業を進めているところである。

○齊藤 佐知子委員

- ・ 具体的にいつというお話が残念ながら出なくて秋ということである。
- ・ 市としての考え方としては、昨今の経済状況を考えればスケジュールの見直しはやむを得ないものと考えたと。この物価高騰、資材の高騰、そういうことがあれば、当然この見直しがやむを得ないものと考えたという市の考え方は、そうだろうなとも思う。思うのだけれども、先ほど収支計画が出されてきたという話もあったが、事業規模の縮小だとかいろんな見直しをしている。板倉委員の御質問でも具体的な話はなかったが、函館市はその商業棟の中で、2階2フロアを買い取るという話になっていた。そしてその中に函館市の5施設を入れるという話を前提に市民説明会をやった。それが縮小となった段階で、——収支計画が合うと言っているが——資材の高騰とかいろんなことがあるとなれば、当然函館市が2フロアを買い取る、そこだってお金は当初の予算より増えると思うが、そこは商業棟を縮小しても2階の2フロアを買い取る方針は市として変わらないでいくということでもいいのか。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 準備組合から示された金額を基に将来的な財政負担も考慮しながら、国の補助金などの活用も視野に入れ、購入もしくは借りることも並行して総合的に検討していくということで進めていた。まだ全体の事業費など公式に提示されていないが、その中で検討していくということで考えている。

○齊藤 佐知子委員

- ・ この再開発のビルは、民間の事業組合、準備組合が今これから設立に向けて動いていると。その民間の組合は函館市に買い取ってもらい、借りてもらい、当然それは望んでいることだと、強く望んでいることだと私は思う。この駅前の再開発事業は民間だが、函館市の経済部が中心となり、中心市街地の観点で駅前大門地区のにぎわい創出に向けたあり方を検討していく。棒二の話だけじゃなく、東雲広路も全部含めて、函館駅前のその地域を函館市としてどういうふうになぎわいを創出するか、それをしっかり考えたうえで、じゃあこの再開発事業がどうなのかというふうを考えていくことが、

大事じゃないかと思う。都市建設部は2週間に1回連絡会議をしていると。一生懸命やっていると思うが、ただ、聞いていると都市建設部は事業組合がこういうことをしたい、ああいうことをしたい、いろんな話のときに、これだったら国の補助金、こんな制度が使えるということをアドバイスし、あくまでも組合が主で市はアドバイスをする。そういう立場でいる。でもそうではなく、函館市の駅前としてのあり方、それは市としてきちんと考えるべきだと思う。

- ・ もう一つ言わせてもらえば、新しい市長になり、今新幹線の問題がある。私が思うには、民間のホテルだとか商業棟とか、民間の事業者の方たちも函館の駅に新幹線が来るか来ないかというのは大きな問題で考えていると思う。だから、この秋ぐらいまでにはいろんな話を出すと言うが、皆様子を見るのではないかと思っていて、また延びるのではないかと危惧している。新幹線のいろんな問題と一緒にというわけにはいかないと思うが、やはり函館市としてどうするか。私は民に対して市がどうこうしろと言うのではなく、函館市としてどうするかというのが先にあって、その中でここがどういう位置づけになるか。そういう考え方をすべきではないかというふうに思うがいかがか。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ このエリアについて、市民、議会、我々行政としてにぎわいということは一致しているのかなと思っている。コロナの状況や、社会経済状況が目まぐるしく変わっていく中で、今齊藤委員がおっしゃった新幹線とか、長い目で見たとときにどうするかというのは当然必要なのかなと思っている。その必要性の部分についても、庁内的にあり方なのか、方向性なのか、そういったものを示すあるいは策定することが必要なのかも含めて、庁内議論させていただきたいと思っている。それと同時に今回の駅前あるいは公共施設の整備、秋頃には、まずは皆さんの議論を進めるためにも何かしらお示しできればいいかなと。その上で、皆さんの意見も聞きながらどう進んで行くか、そういうふうな感じで進めていきたいと思っている。

○齊藤 佐知子委員

- ・ 部長は今必要なかどうなのかから検討したいって言いましたが、私は間違いなく必要だと思う。ぜひ庁内議論をしっかりと進めていっていただきたいと思う。
- ・ それから東雲広路の再整備見送りの経過、先ほど板倉委員の質問でどういう経過かというのは分かった。これは都市構造再編集中支援事業の一つで、他にも高砂通とかも含まれていて、これは令和8年度で終わるはず。棒二の問題はちょっと延び、東雲広路のそこは見送りだっというの分かったが、それ以外の部分は今後どうしていくのかお聞きしたい。

○都市計画課長（小畑 雅裕）

- ・ 都市構造再編集中支援事業は、令和4年度から8年度の5年間において、市街地再開発事業と各事業が相互に効果を高めあいながら、魅力的な都市機能、居住誘導を図ることを目的としている。現時点で、都市構造再編集中支援事業に基づく基幹事業である東雲広路の整備だとか、今令和8年度の完成が厳しい状況となっている。その他については、公共施設の施設整備が、再開発の方がちょっと遅れるということ。その他いろいろソフト対策を行っており、大門地区の補助事業関係だとか、高砂通、公園線の整備についてはそのまま進捗している状況である。ただ令和8年度で計画している事業が終わらない状況になっているので、今後現計画の修正だとかを検討しながら、まちづく

りの方向性が定まり次第、令和9年度以降の継続的な計画への移行を検討してまいりたいと思っている。現在、国並びに北海道との連絡調整を図っているところである。

○斉藤 佐知子委員

- ・ そのまま他の部分は継続していくということでわかった。
- ・ 今の答弁でも駅前のにぎわい創出をどうやっていくか、そのまちづくりが一番大きなところだという話なので、しっかりと庁内議論を重ねてきちんと進めていっていただきたいと思う。

○紺谷 克孝委員

- ・ 1、2点確認しておきたい。先ほどの質疑の中で、新たな公共施設の整備にあたっては今までの既定の5つの施設の統廃合については決まっていない、前提としていないというような答弁があったが、これは今まで統廃合を前提とした中で進めてきたと。去年行われた市民説明会でもそれを前提として進めてきたという経緯があると思う。したがってこれは大きな変化というか変更だというふうに思う。今まで参加した市民には5つの施設が前提だという話をしていた。大きな変更については市民にきちんと前提でないということを知らせるべきだと思うがいかがか。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 令和3年9月の中間報告の段階で統廃合を検討する施設等ということで通知を出しており、統廃合をするという前提ではなく統廃合を検討する施設として5施設あげさせていただいており、それについて市民説明会で御意見等を聞いたという経過になるので、前提としているものではないとこちらでは受け止めており、特にそれが大きく変更したというふうには思っていない。

○紺谷 克孝委員

- ・ 検討と前提としていないというのはだいぶ違うと思う。前提というのは検討からは外すということじゃないか。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 補足も含めてだが、令和3年9月の中間報告で公共施設の統廃合という市としての案を示させてもらった。それを経て令和4年4月に市民説明会等を行い、令和4年5月に市民からの意見等を取りまとめて公表した。昨年、経済建設常任委員会の調査事件として議論をされた中で、市としての統廃合というところで示させていただいたが、市民の意見、経済建設常任委員会の調査事件の意見を含めて、本当に統廃合がいいのかも含めて、本当ににぎわうためにはどういう施設がいいかというところをもんでいる最中である。その上で皆さんに改めて示すということになる。我々は皆さんの意見をまず聞いた中で進めるということできたので、今後もそういうスタンスで——まず私たちの案を示さないと皆さんの議論が進まないと思っているので、いろんなアイデアを持ちながら、どれがいいかということを含めて、その中で統廃合なのか、あるいは対象になっている5施設の一部機能なのかを入れることによって駅前の再開発の民間との相乗効果でにぎわうかどうかということを含めて考えており、そういうふうに進めたいと思っている。

○紺谷 克孝委員

- ・ 秋頃に提案するときにはそのことについて前提としないで、きちんとその案を示していただきたいと思う。
- ・ もう1点は、秋頃に事業組合からそれなりの案が提案されると先ほどの答弁でも、資料にも書い

であるが、そのとき同時に函館市の統合施設についても3、4階の公共施設については、ある程度どうするかという案は出せると捉えていいか。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 秋頃予定している報告内容について、どのような施設や機能を入れるかといった具体的な整備内容の報告ではなく、まず全体事業の収支を合わせる段階に精査しているという段階である。公共施設についても、例えばフロアの階層、何階にするのかとか、どのくらいの規模なのか、また床を取得する方向性、そういった内容についての検討状況を報告したいと考えている。

○紺谷 克孝委員

- ・ 全体の事業が遅れているのはよくわかるが、その事業が示されてから改めて公共施設について検討することになるとますます遅れると思う。市民説明会を開催してから1年半経過している。どんどん事業が遅れると、先ほど斉藤委員が言われた新幹線の問題なんかも新たに加わってくる。そういう状況が変わる中で、市民の意見も当然変わってくると思う。遅滞なく計画を進めていくということで、どういうレベルで決めていくのか。新しい市長は議会や市民によく理解を求めると。意見も聞いていきたいということを柱にしている。そういうことを加味し、経済部が庁内でとりまとめて公共施設についてこういう形で造っていくという場合に、専門家とかそういう人たちの意見を聞くのか、市民の意見を改めて聞くのかどうか、スケジュールは大体決まっているのか。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 令和4年12月に参考資料配付しているが、その中で市としての考え方で、再開発事業の進捗を踏まえて市民や議会、有識者などの意見もお聞きしながら丁寧に進めていくと示している。とは言いながらもそこから少し時間が経っているところであり、繰り返しになるが、まず収支があって規模がどのくらいになるのか、それを前提としながら進めていきたいと思う。まずは秋頃を目途に床の取得等の方向性は示させてもらいたいと思うが、その後のスケジュールは現時点では詳細に決まっていないところである。ただ、丁寧に進めていきたいと思っているので、よろしく願います。

○紺谷 克孝委員

- ・ スケジュール等については、市が独自で計画を作る、やっていくことだから進めることができると思うので、早急にその方向に向けてスケジュール等も提出していただきたい。

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 発言を終結する。
- ・ 理事者においては本事業について動きがあれば議会へ報告を行っていただくようお願いする。
- ・ 理事者には御退出願う。

（経済部・都市建設部 退出）

- ・ その他、本件について何か御発言あるか。

○板倉 一幸委員

- ・ 委員長からも理事者に話があったが、この東地区の再開発事業だけではなくて、東雲広路だとか、グリーンプラザだとか、そういうものがあるから、適時適切な時期に理事者側から説明する機会を作ってもらいたいということをお願いする。

○委員長（山口 勝彦）

- ・ わかった。そのように進めたいと思う。
 - ・ 議題終結宣告
-

2 その他

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 本委員会の新たな調査事件について、正副の案として、地域の人手不足に対する取り組みについてを調査してはどうかと考えている。本件について提案する理由や調査の目的について資料を調製したので説明する。
- ・ 資料説明：経済建設常任委員会 所管事務調査事件（案）
- ・ 地域の人手不足に対する取り組みについてを本委員会の新たな調査事件として取り扱うということによろしいか。（異議なし）
- ・ 今後の進め方については、資料のとおり、まずは理事者から改めて本市の現状等を捕捉できる資料の説明を受け、現状調査を行っていく。その後、課題などを整理した上で、他都市の取り組み事例も含めて調査を行っていく。そのような進め方によろしいか。（異議なし）
- ・ その他本件について各委員から発言あるか。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 4の調査の進め方はこれでいいと思うが、スケジュール的にこの他都市の取り組みとか、調査研究、視察というのは10月、11月あたりまでに(1)、(2)は終わっておくというスケジュールでいいのか。

○委員長（山口 勝彦）

- ・ スケジュール的には斉藤委員の言うとおりの流れになると思う。事務局と精査しながら後日御報告する。
- ・ 散会宣告

午前11時37分散会